



新設備ご紹介：ピアサー

いつもご愛読ありがとうございます。

大和合金でございます。

皆様ご存じの通り、10月1日より全国一律で緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が解除されました。ワクチン接種率の上昇のおかげ？か国内の感染者も減ってきており、メルマガを御覧頂いている皆様もホッとされているのではないのでしょうか。

弊社も往訪、出張につきましては感染者が高止まりしていた宣言下の時期よりもスムーズに行えるようになりましたので、当社営業課員はご無沙汰してしまっているお取引先様にもこれからお伺いできる機会をつくりやすくなると思います。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、今回のテーマは7月のメルマガで予告しておりました新設備ご紹介です。

ピアサー（熱間穿孔機 別名：マンネスマン穿孔機）

【ピアサー全体図 全長 23m】



こちらの新設備は「新」とご紹介しましたが、とある企業様にて今後使用されなくなるとの

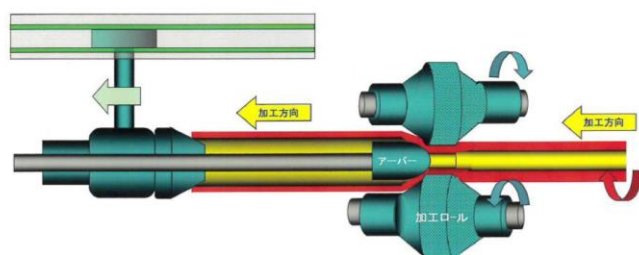
事で、弊社が中古にて購入したものでございます。コア部分についてはドイツにてなんと約 100 年前に作られ、現在日本国内には 2 基しかございません。おっと、皆さん 100 年も前に作られたものが今も動くの？と疑問に思われるかもしれませんが動きます。

大変貴重（骨董）な設備と言えますので、ぜひ一度見にいらして下さい。まだまだ現役バリバリです。

さて、現在の状況ですが、既に三芳合金工業内への設置が完了しており、現在稼働テスト並びに試作を進めております。どの材質ができて、どの材質だと大変なのかトライ&エラーで確認を進めており、近いうちに量産のステージを目指しております。

しかし、上記写真を見ても「これは何？何ができるの？」と疑問を持たれる方もいらっしゃると思いますので、もう少し分かりやすいイメージ図を挿入致します。

マンネスマン穿孔機のイメージ



加工ロールの回転により
材料が加工方向に押し出される。

三芳合金工業株式会社

下穴を開けた素材を右から左へと回転させながら押し出すことで加工ロールが素材を吸い込むようなイメージで拡管しながらパイプ状の形状へと変化致します。下記が出来上がったパイプの写真となります。

<出来上がり写真>



現在、弊社では主に航空機の足回りに使われるブッシング材の生産を行っておりますが、この設備を有効活用することで生産効率が向上し、更にこれまで供給できなかった長いサイズの供給も可能になることからお客様が切断して使用する際の歩留まりの向上にも貢献できる予定です。

<特徴>

パイプ形状の太物材料を製造する設備となり、主に航空機用軸受素材（ブッシング材等）に使用されます。

製作範囲： 外径 ϕ 170～350mm、内径 ϕ 120～250mm、最大長さ 2,500mm 程度

個別にお問い合わせ頂けましたら、ピアサーを使用した加工品の流れの写真付き資料をご案内致しますのでお気軽にご相談下さいませ。

弊社では今後も設備投資を続けていく予定ですので、また来月以降の回にて別の設備のご紹介ができると考えています。他既存設備含め皆様からのご質問・ご意見をお待ちしております。それでは、また次回配信を楽しみにしていただきます。ありがとうございました。